島根大、島根県立大、松江高専合同フォーラム

「島根県の高等教育の未来を考える」をテーマにした島根大、島根県立大、松江高専による「大学教育合同フォーラムｉｎ島根2009」がこのほど、松江市朝日町の松江テルサであった。教育関係者ら約130人が基調講演やパネルディスカッションを通じて高等教育機関のあるべき姿を探った。山陰の高等教育機関が連携して教育力向上を目指す取り組みの一環で、島根大教育開発センターが主催した。フォーラムの内容を紹介する。

島根県の教育の未来―大学に期待すること―

溝口善兵衛知事 基調講演

産業振興への協力期待

大学に期待することは二つある。第一に産業振興への協力、そして、地域活性化への協力だ。

近年、産業振興は県の重要課題となっている。人材育成はもちろん、大学の研究を企業に還元したり、一緒に研究したり、あるいは学生がまちおこしに参加したりといったことが多い。大都市ではあまりこういうことがなく、島根の特徴だと思う。

この取り組みをさらに強化し、協力しやすくしていくことが県政の課題。大学への期待も、そういうことだと思う。

明治時代に生まれた大学は国家、社会のために人材を養成し、国力発展のために技術、学問を進展するというのが大きな目的だったと思う。これが最近では地域社会への貢献という目的が大きくなってきた。

「大学に期待すること」というきょうの演題を考えたとき、県庁に大学のことを一元的に担当している部署がないことが思い当たった。

例えば、産業振興に関することは商工労働部、医師の確保であれば健康福祉部というふうにそれぞれの部署が必要に迫られて大学の協力を得ている。県庁として体系立てて、やっているわけではない。

ここを少し整理し、より協力を得やすくすることが必要になってくると感じている。

大学側はこの点、産学連携センターといった窓口が整備されてはいるが、実際の協力の場面になると、先生によってテーマが違い、具体的にはそれぞれの先生と個別に話を進めることになる。

個別の話になるにしても、そうした協力関係を促進する支援とか、意見交換の場所が必要になりつつあるのではないか。

企業から見ると、どの先生がどんな研究をしていて、自分のビジネスとどうつながるのか、情報が少ない。研究は個々の先生がやっており、その先生に行き当たらないと話ができない。仲介してくれる人がいないと唐突には話を持って行けない。そんな声を聞く。

仕組みを改善していく必要があると思う。

もう一つ、大学に期待することとして、地域活性化への協力を挙げるのは、大学が社会の知的リーダーだということだ。

例えば、伝統文化の保存とか、環境問題で先鞭（せんべん）をつけ、リードする役割は大学の先生方が演じておられる。地域課題の解決についても大きな刺激を与えてもらっている。さらに進めてほしいと期待する。

学生が先生と一緒に研究したり、まちづくり活動に参加したりということも期待している。大学は人材を育てるということ以外にも地域に大きな刺激を与えている。

インターネットで地方から発信できる時代になり、地方自ら全国に発信できる領域も増えている。その意味でも大学の先生方の役割は大きくなっていると考えている。

2010.4.14 山陰中央新報 （掲載許可済）